

OECD日本政府代表部
兒玉和夫 大使閣下

(1) 本日、悲しくも貴国を襲い、多くの人々が亡くなられ又は行方不明となり、東北の広大な沿岸部を破壊し、福島第一原子力発電所の甚大な事故を引き起こした地震と津波から5周年を迎えます。この悲しい出来事は、当時、我々全てに影響を与え、我々の記憶に永遠に残るものです。

(2) 本日の（IEA）理事会のビューロー会合の機会に、貴使に対し、2011年のこの日に貴国で失われた人命と損壊に対する、私個人の同情の念をお伝えさせていただきました。IEA事務局を代表し、本日、我々の思いは、貴国全土で黙祷が捧げられるのに際し、貴使そして貴国の人々と共にあることをお伝えしたいと思います。5年前、田中信男事務局長の下で、IEAは直ちに支援を申し出、地域全体におけるエネルギー供給の状況の詳細なモニタリングを行いました。今日、我々は引き続き貴国と共にあり、貴使をいかなる方法においても支援することにこれまで同様コミットしています。

(3) 貴国の政府及び人々に対し、多大なる努力をもってこの甚大な災害に立ち向かわれたことに祝意をお伝えしたいと思います。貴国の過去5年間の対応は最も賞賛に値するものであり、貴国の努力は、間違いなく、我々全てに貴重な教訓を与えました。

国際エネルギー機関事務局長
ファティ・ビロル